

住登外宛名管理業務について(現行)

1 業務の概要

(1) 業務内容

住民基本台帳法で管理している住民以外の、仙台市の業務に必要な市内外の個人の宛名情報（住所、氏名、生年月日、性別等）について管理を行う業務。日本国籍・外国籍、市内・市外のデータが混在している。（約 20 万件）

基幹系業務で住登外宛名を利用する全ての業務で更新処理を行うため、同一データを複数の部署で更新する形態をとっている。更新データは、履歴管理を行い、宛名連携で各業務システムへ提供している。

(2) 利用業務と利用形態

基幹系の業務システムの中で住登外を利用している業務は、国民健康保険、児童手当、医療助成、税業務全般、し尿処理手数料、就学等多岐に渡っている。主に以下のような利用形態がある。

- ・国保の遠隔地被保険者証の交付
- ・国保の市外転出者への滞納整理
- ・住民基本台帳の登録内容を修正出来ない人への手当等の支給
- ・住民基本台帳に登録していない人への新規課税
- ・住民基本台帳に登録していた納税義務者の市外転出
- ・住民基本台帳に登録していない世帯へのし尿処理手数料の徴収
- ・市外からの就学

(3) 管理項目

最新情報を住登外 DB で、履歴情報を住登外履歴 DB で管理している。マイナンバーのみ住登外マイナンバーDB に格納している。

① 画面表示・入力項目

必須入力：カナ氏名、漢字氏名、住所、更新事由

任意入力：生年月日(*1)、性別、国籍(*1)、マイナンバー(*2)

システム自動入力：宛名コード(*3)、行政区(*4)、登録日、登録事由、更新課、更新者、更新日
*1 クリア可能。

*2 マイナンバーは、操作権限がある場合に表示され入力可能となる。

*3 住登外 DB では個人コードをキーにしており、宛名コードは格納していない。コード変換 DB で個人コードと宛名コードが対となり管理されている。住登外 DB の個人コードでコード変換 DB

別紙 6 現行住登外宛名管理①

を読み、宛名コードを取得し画面に表示している。新規作成時には、入力データの更新時に個人コードと宛名コードをセットで新規付番している。

*4 市内住所を入力時に行政区コードが取得される。画面には行政区コードを漢字翻訳し表示。

② システム管理項目

個人コード、住民区分、履歴番号、市内外コード、町名コード、縣市町村コード、字コード、番地タイプ、地番、枝番、枝々番、郵便番号、無効フラグ、等

(4) データ作成のパターン

住登外業務で管理する個人のデータは、以下のパターンで作成する。

- i 住登者及び住登外で管理していない人のデータを新規に作成する。
- ii 住登者で除票になっている場合に、住登時の情報を引き継いでデータを作成する。
- iii 住登者でやむをえない事情（DV等）により登録を修正出来ない人の情報を新規に作成する。

(5) 処理概要

① 新規登録

除票を含む住登者、旧外登、住登外に該当者のデータが存在しない場合、住登者でやむをえない事情により登録を修正出来ない場合に新規に住登外データを作成する。

宛名コードの付番は更新時点なので、「新規登録」の処理中には表示されない。更新後に宛名照会を行い宛名コードを確認すること。

② 除票からの登録

検索キーにより各一覧画面から除票者を選択、もしくは宛名コードを入力し、除票者の情報を引き継ぎ住登外データを作成する。

初期値として除票者のデータがセットされる。住所は最終住登地。外国籍で通称名がある場合は、氏名は通称名になる。

転出予定日未到達のデータからも、住登外データを作成出来る。

個人コード、宛名コードは除票者のものを継続使用し、業務システムで人の入れ替えを行わず業務を継続できる。コード変換 DB の住民区分を“2”に塗り替える。

住登除票から住登外を作成した状態で住民票の回復処理を行った場合、住登外データを「失効」に更新する。住登外異動画面から「失効」への更新は出来ない。「失効」データへの更新も出来ない。回復された住民票が除票になった場合、再度住登外データの作成は可能であり、「失効」データは履歴に格納される。

③ 更新

既にある住登外データを選択し、住登外 DB の最新データに対して修正内容を入力し更新する。修正前のデータは住登外履歴 DB に格納される。

3 入力項目の説明

(1) 検索キー

① カナ氏名（同姓同名選択画面へ）

半角カナの完全一致での検索。小文字は入力不可になっているのですべて大文字を使用。長音は“半角ハイフン”で統一されている。以前は“ㇿ”の入力を制限していたが、入力可で調整。

② 住所（同住所選択画面へ）

画面より町字を選択し、番地を任意入力することにより検索する。住所関連のコードに格納されている数字での検索になるので、データ作成時に漢字住所の直接入力や町字を選択後に漢字で上書きして入力した場合には、正しく抽出されない。（*1）

*1 市内：市内町名コード+地番+枝番+枝々番、
市外：県市町村コード+字コード+地番+枝番+枝々番

③ 生年月日（同生年月日選択画面へ）

検索キーとして西暦・和暦どちらでも入力可であるが、データは和暦で格納されているので実質和暦での検索となっている。一部のありえない日付（小の月の31日や改元前後の元号・年の不一致など）のデータは抽出不可能になっている。

④ 住民区分

他のキーと組み合わせて、「1：住登者」、「2：住登外」、「3：旧外登」を入力。

⑤ 宛名コード

作成済みの住登者・住登外のデータを直接指定する。

⑥ マイナンバー

作成済みの住登者・住登外のデータを直接指定する。権限がある場合のみ入力可能。

(2) 異動入力

① 氏名

「姓名変換」画面で、カナ氏名を入力し姓名辞書で表示される候補の漢字を選択するか、カナ氏名・漢字氏名を直接入力する。（住民情報システム共通機能）

② 市内住所

「市内住所変換」画面で、カナ町名を先頭から任意の文字数入力し候補の一覧から町名を選択する。地番・枝番・枝々番・番地タイプを数字で入力し漢字文字列に変換する。入力作業を行うことにより、行政区コード、カナ町名、市内外区分、市内町名コード、番地タイプ、地番、枝番、枝々番、郵便番号が自動セットされる。（住民情報システム共通機能）

別紙 6 現行住登外宛名管理①

③ 市外住所

「市外住所変換」画面で、都道府県を選択し、市区町村及び町字はカナを先頭から任意の文字数入力し候補の一覧から選択する。地番・枝番・枝々番・番地タイプを数字で入力し漢字文字列に変換する。入力作業を行うことにより、市内外区分、縣市町村コード、字コード、地番、枝番、枝々番、郵便番号が自動セットされる。町字の候補で入力する内容が選択肢にない場合、漢字文字列を直接入力することになるが、住所コード、郵便番号は正しくセットされない。(住民情報システム共通機能)

④ 生年月日

外国籍の方でも和暦での入力となる。“GYMMDD”の形式。

⑤ 国籍

国籍コードの直接入力か、一覧からの選択。

⑥ 更新事由

住登外データを作成・更新する根拠とした資料や情報について更新事由コードを選択して入力する。更新事由コード“90 その他”を選択した場合は、更新事由詳細が必須入力となり、直接文字列を入力する。

画面表示は、更新事由コード、更新事由コードの意味、更新事由詳細を連結して編集する

4 宛名リアル連携

住登外データを作成・更新すると、住登外異動データが作成され、宛名リアル連携データが作成される。リアル連携を利用するか・日次差分を利用するか、自業務システムに取り込むかどうかは業務システム次第になっている。

除票者の回復処理による住登外データの失効時は、住登外の宛名連携データは作成されず、住登者の異動データのみとなる。

5 個人コード・宛名コード・統合宛名管理番号

住登者・住登外には宛名コードを付番しているが、どちらも住民情報システム内での処理であるため、同一の末番管理機能を利用している。個人コードも同様である。住民情報システムで宛名コードを新規付番した場合、統合宛名管理番号は宛名コードより算出しており、住民情報システムで付番し宛名リアル連携で統合宛名管理システムに連携している。

除票者から住登外を作成した場合にのみ宛名コード・個人コード・統合宛名管理番号は引き継がれるが、住登外で管理している個人の仙台市への転入や除票者の再転入などでは、データ作成時に宛名コード・個人コード・統合宛名管理番号は新規に別な番号が付番される。同一人物と確認が取れた後で各業務システムでは、コードの入れ替えや紐付けを行うことになる。

別紙 6 現行住登外宛名管理①

6 バッチ処理

区画整理・住居表示業務では、実施直後に該当者の一覧表を作成しデータを作成した部署に送付している。抽出条件は住所コードになるので、漢字住所の直接入力データはリストアップされない。

一覧表を配布された部署では、現在業務で利用しているデータに対して住所の入力を行っている。